

# ヨーロッパザラボヤ関係調査結果

道総研中央水産試験場

## ◎ヨーロッパザラボヤ浮遊幼生調査

5月13日に祝津ホタテ養殖漁場の「かみの陸側」、「なかの陸側」、「しもの沖側」、の3カ所で、表層から水深30mまで3層にわけて浮遊幼生調査を行いました。調査の結果、ザラボヤの幼生は確認されませんでした（表1）。「かみの陸側」で、多くのその他のホヤの幼生が確認されました。

表1：ヨーロッパザラボヤ浮遊幼生調査結果

場所	水深	水温	クロロフィル	ザラボヤ		ユウレイボヤ		その他のホヤ		ヒトデ		フジツボ	
				個	個/トッ	個	個/トッ	個	個/トッ	個	個/トッ	個	個/トッ
かみ (陸側)	0~10m	10.5~11.3	0.1~0.2					19	47.5		2.5		
	10~20m	9.8~10.5	0.1~0.4										
	20~30m	8.8~9.8	0.4~1.6					1	2.5				
なか (陸側)	0~10m	10.4~11.7	0.1~0.2					1	2.5				
	10~20m	9.9~10.4	0.1~0.6					1	2.5				
	20~30m	9.1~9.9	0.3~3.2										
しも (沖側)	0~10m	10.4~12.0	0.1~0.2					1	2.5		2.5		
	10~20m	9.4~10.4	0.1~0.4								2.5		
	20~30m	8.8~9.4	0.3~4.0					1	2.5		2.5		

## 【参考資料】

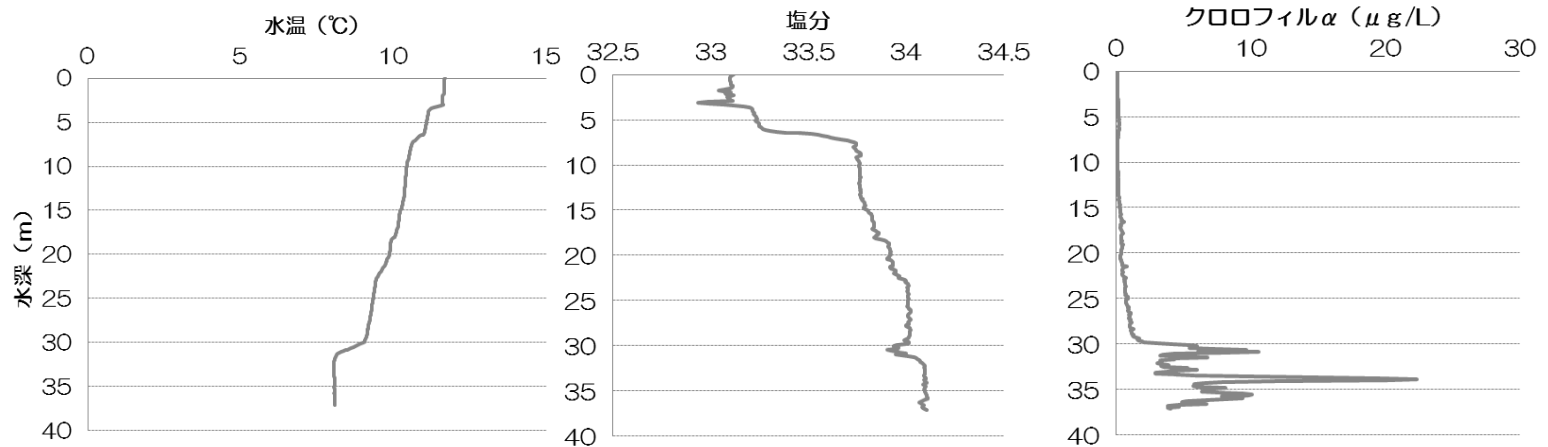


図1：「なか」の水温・塩分・クロロフィルの鉛直分布

◎ヨーロッパザラボヤ調査は今後継続して実施します。

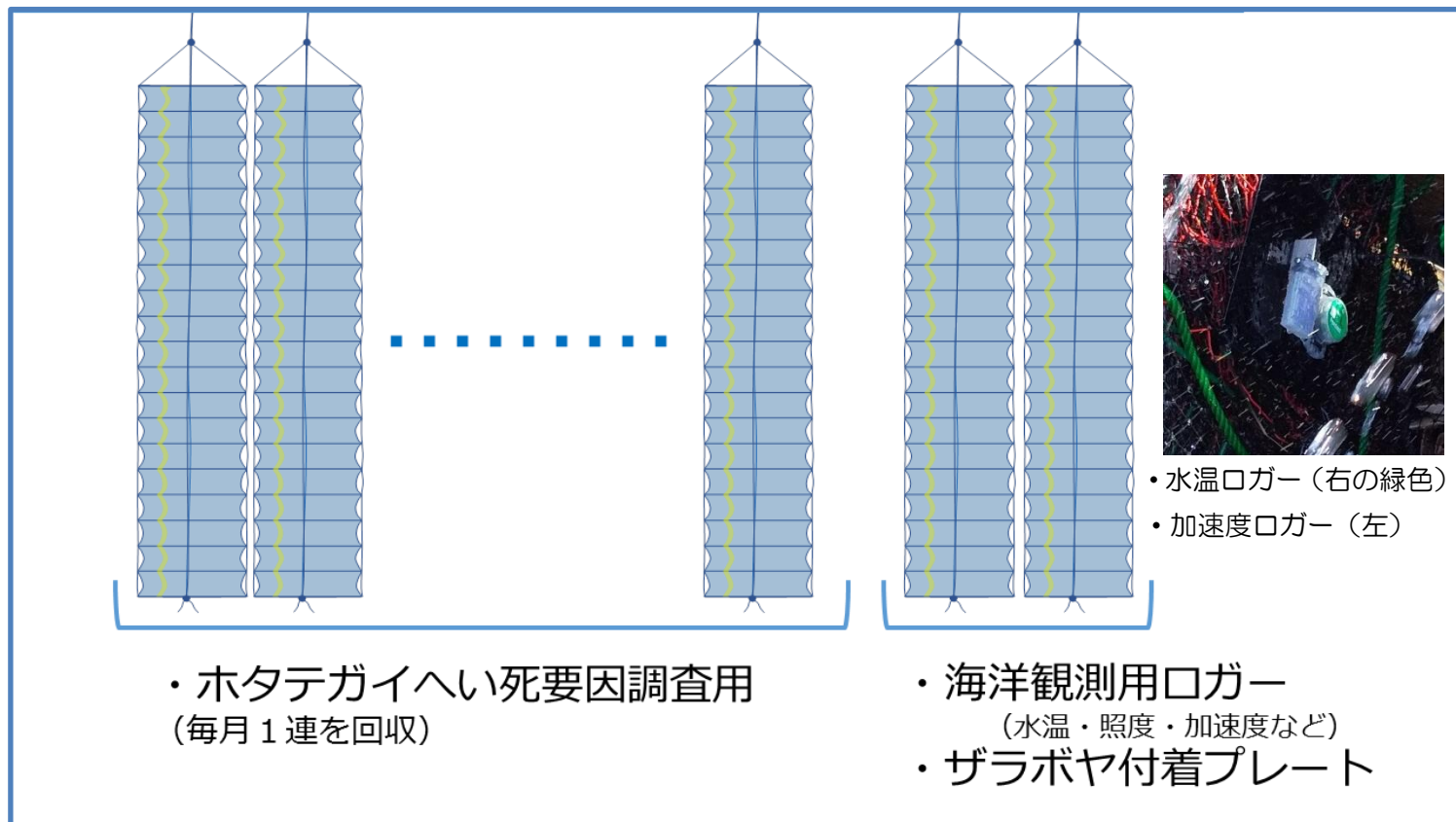
次回調査は、来週月曜日に指導所のホタテガイ調査と平行して実施予定です。

※この調査は北海道ほたて漁業振興協会からの委託研究により実施しています。

## ホタテガイへい死要因・ザラボヤ調査を開始しました

5月13日に海洋観測用ロガー・ザラボヤ付着プレートを設置した籠を2連、ホタテガイへい死要因調査用の籠を11連設置しました。

◎調査の概要（毎月1回、調査を実施する予定です。）



### ・ホタテガイへい死要因調査

ホタテガイの生育環境を調べるために、籠に設置したロガーから水温や加速度（籠の揺れを測定します）などの物理データを収集します。併せて、毎月1連の籠を回収し、ホタテガイの生体測定を行うことで、ホタテガイのへい死と生息環境との関連性を調べます。

### ・ザラボヤ調査

ザラボヤがいつ付着を開始するのか、また付着の盛期はいつなのかといった情報を収集するために、籠にプレートを設置しました。プレートは毎月新品に交換し、回収したプレートのザラボヤの付着状況から、付着時期（盛期）などを調べます。また、付着個体を採集し、成熟時期の把握を行います。